

平成28年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

平成29年2月3日（金）午後1時30分から午後2時50分まで

2 場所

碧南市役所2階 会議室1

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（各種団体の代表者）

河原 厚司、杉浦 三代枝、板倉 貞利、禰宜田 知司、平松 昌美、牧野 昭彦、
對馬 幸司、岡本 みどり、永坂 幸子、鳥居 寛英及び高松 好美

(2) 欠席者

石川 繁夫、長谷川 哲巳、倉内 三代子及び金子 てる子

(3) アドバイザー

日本福祉大学 野尻 紀恵准教授

(3) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 奥谷 直人、福祉課長 金原 厚夫、福祉課課長補佐 鈴木
善三、福祉課社会福祉係担当係長 鈴木 信恵及び福祉課社会福祉係主事 山田
真言

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長 三枝 寿也、地域福祉課課長補佐 杉浦 宏真及び地域福祉課
主事 古川 裕隆

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) 第2次碧南市地域福祉計画の進捗状況について

ア 市民の意識調査結果

イ 行政の取り組み

ウ 社会福祉協議会の取り組み

(2) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（河原委員長）

碧南市地域福祉計画は「共に生き、相互に支え合うことができる地域」の構築や「地域の出来事をまず自分事として考える。」ことに取り組みながら、市民や様々な関係団体、社会福祉協議会と市において、「自助（自立）」、「共助（支え合い）」、「公助（支援と保障）」を前回の計画から引き続き継続して進めていくものです。

また、この計画は5つの基本目標「1 福祉の意識を高める環境づくり」、「2 世代間や地域での交流の機会づくり」、「3 地域福祉活動を支える人づくり」、「4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり」、「5 安心・安全を高める地域づくり」を掲げ、基本理念である「地域で築く つながり 支えあうまち へきなん」を目指しています。

今回この計画の推進体制として、進捗管理、評価を行うため、本日は活発なご意見をお願いします。

なお、職務代理人につきましては、社会福祉協議会の杉浦三代枝様を指名しますのでよろしくをお願いします。

(2) 第2次碧南市地域福祉計画の概要について

事務局福祉課より会議資料（資料1 ページから5 ページ）に基づき説明を行った。

(3) 議題

ア 地域福祉計画の進捗状況について

(ア) 市民の意識調査結果

事務局福祉課より会議資料(資料6 ページから12 ページ)に基づき、議題の説明をした。

<主な意見・質疑>

【A委員】

第50回碧南市市政アンケート内の「10 地域活動について」や「11 地域福祉」等の質問は今回が初めてか。

【事務局】

そうです。

【A委員】

説明の中でもあった通り、ボランティア等の参加意識の低さが伺える。私が所

属している地区の集まりでも、ボランティア行事の参加率は30パーセント程度であり、決まったメンバーしか参加しないことが問題である。地区の活動やボランティアなどの参加意識をどう高めていくかが課題であると思われる。

【B委員】

資料5ページの説明で福祉計画の推進はPCDAサイクルの活用により実効性を高めていく旨の説明があったが「C」(Check)についてはどのように実行していくのか。資料6ページからのアンケートがそれにあたるのか。

【事務局】

アンケートはあくまで現状の把握として行ったものであり、「C」(Check)についてはこの推進委員会がそれにあたり、この後の議題で意見を頂きたいと思う。

(イ) 行政の取り組みについて

事務局福祉課より会議資料(資料13ページから26ページ)に基づき、議題の説明をした。

<主な意見・質疑>

【C委員】

資料23ページの下部で生活困窮について触れている。計画と大きくかかわるものではないが、知り合いとの会話の中で出てきた要望、疑問点について話させていただく。国民年金の金額と生活保護の金額は後者の方が高いことに不公平性を感じている人がいる。市としてはどう考えているか。

【事務局】

生活保護受給者数は碧南市で約350人(市民のおよそ0.05%)が受給している。これは国の制度であり、この制度が変わらないとその方が感じられているような不公平性の解消はできない。

(ウ) 社会福祉協議会の取り組みについて

事務局社会福祉協議会より会議資料(資料27ページから50ページ)に基づき、議題の説明をした。

<主な意見・質疑>

【A委員】

イ「行政の取り組み」、ウ「社会福祉協議会の取り組み」に共通して言えるこ

とだが、この表中の「○、△、×」は何を基準に評価しているのか。

【事務局】

この第2次碧南市地域福祉計画の進捗状況として施策に係る機関がどう判断しているかというもの。

【A委員】

わかりました。私は14ページ施策2「声掛け運動の推進」の中にあるような「愛のパトロール」等の活動を実施しているが、関係課の生涯学習課は年間何回参加しているかの確認をするだけで、活動の様子を見たり、一緒に参加したりはしていない。実際に参加していないのにもかかわらず回数だけの報告だけで何を判断しているかわからない。机上だけの判断ではなく、現場も知ってほしい。

【事務局】

ご意見はごもっともだと思います。社会福祉協議会でも市内の各地域で地域福祉ケア会議を行い、地域の課題を話し合っている。そこで課題はいくつも挙げられているが、いざ解消に向けての即効性のある策の実行は難しい。そこで今行っている施策は目標達成に近づいているのかを自己診断したものでありご理解を頂きたい。

【D委員】

感想になってしまうが、2週間前の新聞で地域福祉計画について策定済みの市町村は全国の半数以下であるらしい。碧南市においては第2次ということで行政、社会福祉協議会の意気込みを感じる。

計画では行政、社会福祉協議会が一体となっていたのが良かったが、結果はそれぞれの報告であり一体となった計画の枠組みが引き継がれていないのが残念に感じる。福祉計画の目標に対し市民も含めた三者がどう協働してやれたか今回の報告ではわかりにくい。

また、私は福祉施設で働いているが、業務の中で日々困っていて、支え合いを求めている人は多いと感じている。何も変わっていかないと感じている人も多くいる。そんなあきらめて声にならない声をどう聞いていくかが地域福祉には大切だと感じている。気の遠くなるような話だとは思いますが。

イ 各地区の地域福祉実施状況について

事務局社会福祉協議会より別添資料1に基づいて説明が行われた。

<主な意見・質疑>

【E委員】

社会福祉協議会主催の担当地区のケア会議にいつも参加させていただいています。

私は碧南に転居してきてまだ数年で、地区のことはわかりませんでした。ケア会議に参加することは地区のことを考え、知る良い機会だったと思います。ケア会議のなかで子どものためのパトロール等の計画をたて、実行に移したが、いざ行ってみると子どもがいない時間帯だったことがあった。計画だけで、実行に移さないと分からないことが多いと感じた。地域福祉計画にも同じことが言えると思う。

また、D委員の話の中でも縦割りの話が出てきたが、自分も同じことを考えている。当事者の話をどう聞いて、少しずつ解決に結び付けていくことが大事。

地域福祉計画に求められるのは、共助の働きかけであり、行政及び社会福祉協議会は着火剤のような役割となり、実際に実行に移していくのは地域の人たちであると思う。

【事務局】

次年度以降の評価方式や、施策の実施に今回の委員会で挙げられた課題を生かしていきたいと思う。

【B委員】

やはり、最初の方の意見にもあったが関心を持ってもらうような働きかけをもっと期待したい。

【F委員】

計画の施策等は素晴らしいと思うが、その取り組みは本当に生活に密着しているのか。もう少し考えてほしい。どうもとらえどころがないように感じる。

【事務局】

今後の社会福祉協議会の取り組みは各地域での地域福祉推進会議を通して大目標の暮らしやすい社会の実現に向け取り組んでいく。

たとえ、具体性が無くても、定期的を開催し、住民同士が話し合い、困った点を考えるだけの会議でもいいと思っている。

行政の取り組みについてはどうしても数値目標ありきになってしまうので、すぐに成果がないものについては、社協で補完していく流れになっていくと思われる。

(4) その他

特になし

(5) アドバイザー（日本福祉大学 野尻紀恵准教授）による総括

地域福祉をどうとらえていくのか。碧南市のような行政、社会福祉協議会が一体となって計画を策定した例は全国でも珍しい。今回は各委員が感じたように行政、社会福祉協議会の歩み寄りといった部分が足りなかったと思われます。これからの計画の推進の中で今回出たご意見は生かされていくと思います。

地域福祉を考える中で1人1人の支援を地域の課題へとどうつなげていくのか。地域の課題の解決から、1人1人の支援にどうつなげていくのか。行政及び社会福祉協議会はそれにどう取り組んでいくかが重要です。

地域福祉は住民同士で取り組んでいくしかありませんが、どのように住民同士で取り組んでいくのかはきっとわからないと思います。その地域福祉のつながりづくりの担い手として行政及び社会福祉協議会が期待されています。